

令和5年度目標と取り組みの状況 令和5年度 学校評価報告書

1. 学校の教育目標

幼稚園教育要領・保育指針を基に、子どもたちが主体的に活動でき、またそれらの活動が深まるようにし、将来にわたって能動的に社会に関わって行けるように愛着形成と信頼、自信、その子らしさを育てる。個々の園児の発達段階に即した保育ができる。
遊びによる保育、環境による保育子ども主体保育の推進。
地域への開かれた園として地域の教育福祉に能動的に関わる。
特別支援、連携機関との連携。キリスト教理念に即した保育を行う。

評価項目	目的、要旨
キリスト教保育	感謝と信頼を大切にし全ての人への愛を実践する。
子ども主体保育	子ども主体の保育の体現と目標の理解
発達理解	発達障害や人間性の多様性に対する理解
保育環境の整備	人、もの、ことの関わりの中で子どもたちが能動的に生活し生きてゆくためのスキルを獲得しその子なりの発達を確保する。ものの、人的、自然環境を整える。
特別支援	特別支援を必要とする園児の保護者と連携を深め関連機関とも関わる中で発達に応じて保育方針や対応を検討し就学に向けて自治体とも連携してあった。また、園外研修に参加した。
保育計画	実践と記録をもとに日毎の記録、期間ごとの記録、年間の記録を取りまとめてフィードバックを行い保育教育課程を整備する。（相馬先生）
マネジメント	保育教育の指針、園の理念に基づき、保育者の個性や希望に即したキャリア計画を作成し、園務にふさわしい組織、システムを形成する。

2. 今年度重点的に取り組む目標・計画

子ども主体の保育を深めてゆくために実際の状況や個々の子どもの育ちを踏まえて協働で保育を深めてゆく。

3. 評価項目の達成及び取り組み目標-1

	重点項目	目的、要旨	詳細・要点	評価
1	保育過程の見直し	実践と記録をもとに日毎の記録、期間ごとの記録、年間の記録を取りまとめてフィードバックを行い保育教育課程を整備する。	実践記録、ドキュメンテーション記録を元に定期的にフィードバックを行い各時期の保育の流れなどを構築することの重要性を理解し子どもの状況を理解することによって環境の整備や対応・活動をデザインすることができている。	B'
2	チームでの保育と情報の共有	園の目標や理念、保育の実際などの情報の共有を行い、すべての職員が共同して職務にあたるようにする。 保護者や関係者との情報の共有。説明などの充実。マニュアルの整備。	園の理念に則して保育のあり方や職員としての人材像を明確にして、保育に臨む目標を明確にすることができている。それに伴って各フロア内での話し合いなどが従実し成果を出してきている。子ども理解に基づく子どもの主体性を尊重する保育について関係者間で理解が進んでいる。	A
3	保育環境の整備	園庭の多様性を生かしつつ安全を確保する。子どもの発達に合わせて保育環境の見直しを行う。	園庭の安全や多様な活動ができる環境を模索し今後の園庭の活用について協議を進め必要ない遊具の撤去を行なった。自然の豊かな園庭であるがメンテナンス計画も作成している。	B'
4	保育の深まり	人、もの、ことの関わりの中で子どもたちが能動的に生活し生きてゆくためのスキルを獲得しその子なりの発達を確保する。ものの、人的、自然環境を整える。	幼児はもの・人・ことの関わりの中で自らの成長する力を発揮することを理解し園庭のみではなく近隣の自然の中で活動することを大切にしてくることができている。	A
5	特別支援	特別支援を必要とする園児や困難を抱える保護者に対して連携を深め関連機関とも関わる中で発達に応じた対応を行う。 就学に向けて自治体とも連携してより良い接続ができるようにする。	特別な支援を必要とする園児に関してその子自身の願いや特性に基づく対応ができきており就学までの発達についても成果が出ている。特別な支援を必要とする園児に関して園内、保護者とのその子自身の状況の把握ができきている。専門家のアドバイスを受けたり園内での情報共有が連絡体制ができつつある。	B'

4、総合的評価

評価	理由
B'	各評価について取り組んだ結果、子ども主体の保育について園全体での理解が深まり組織やシステムも大いに改善している。また、今後さらに保育・教育について保護者や地域の人とも共有し、保育者、園としての存在価値を高めてゆきたいと考えている。

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育過程にに基づく仕事としてのチームで行う保育を進める。	状況や子どもの発達を踏まえてクラスを超えて保育者が関わり合いながら保育を構成する。
保育の環境を整えより子どもたちが多様に関われる環境を整備する。	子どもの成長発達や豊かな心の成長のために環境（もの・人・こと）を整え子どもの経験と遊びを通しての学びを確保する。
発達支援、保護者支援、地域活動などでの情報共有と説明する力の育成	実践している保育に関わる全ての人と共有し、理解を深めつつ共に保育教育にあたることができるようにする。

6、学校関係者評価委員会の評価

子どもの現状を理解し子どものやりたい気持ちなどを尊重し遊びと環境による保育型生されつつある。チームでの保育、他の年齢の園児などとの関わりも重要視しつつ園内でのチームワークができつつある。年間の記録を通して、次年度への活動の目標や保育過程となれるような研修を通して年間の保育の流れもできつつある。保護者支援、特別支援においては専門性を活かし情報の共有を行うことができつつある。